JIAが買収 新生・三京証券の将来展望

今こそ、ヒューマンタッチのアドバイザー的証券会社を

佐藤 歩 次期社長に聞く

IFA、歩合外務員、地場証券との連携視野

ジャパンインベストメントアドバイザー（JIA、7172）は6日、岡藤日産証券HD傘下の三京証券を子会社化すると発表した。取得価額（概算額）11億8200万円、株式譲受予定日は9月10日。9月に三京証券の社長に就任する予定の佐藤歩氏に譲受の目的、今後の事業展望などを聞いた。

――なぜ三京証券なのか。

「JIAグループは、総合金融ソリューション企業として、新たなプロダクトやサービスを提供する窓口となる証券会社の獲得を模索してきた。三京証券は1944年設立で富裕層の個人が顧客。堅実な経営をされているという印象がある。信用を積み上げ成長してきたJIAグループにとって、〝堅実〟というのは非常に重要な要素となる」

――新生・三京証券の目指す姿は。

「私は1995年から2019年まで、四半世紀をネット証券に身を置き、経営に関与してきた。一方、19年からは、地場証券会社の強みが生きる時代を予見し、新卒時以来、再び地場証券に活動拠点を置き、代表者として経営に携わってきた。ネット証券と地場証券の双方の経営経験のある人は他にいないはず。ネット証券と地場証券の双方の強み、弱みを知り尽くしており、フィンテックとヒューマンタッチのアドバイザリー両面からお客さまの資産を守り・増やす唯一無二の証券会社にしたい」

――具体的なイメージは。

「大手証券が得意とするウェルスマネジメント（富裕層対象の総合的な資産管理サービス）、ネット証券が得意とする利便性――この双方を提供できる証券会社はないのではないだろうか」

「JIAグループはオペレーティング・リースを活用した独自性のある金融商品を提供してきた会社。加えて、利回り商品やM&A、ウェルスマネジメント相談などの総合金融ソリューションを提供してきた。その顧客基盤は、地方銀行、証券会社などのビジネスマッチング提携先や、全国の優良中堅・中小企業など広範である。JIAグループと連携して、『お客さまの資産を守り・増やし、お客さまに長く付き合っていただく証券会社』を目指していく。例えると、お客さま一人ひとりにとって〝町医者〟のような証券会社にしたい」

――三京証券が現在主力とする「くりっく365（FX）」「くりっく株365」事業は、岡藤日産証券HD傘下の日産証券に承継される。稼ぎ頭を手放す格好だ。

「JIAグループの成長戦略に基づき、新たなモデルの証券事業拡大を図るという決意の表れ。確かに経営としては『くりっく365』があればラクだが、あれば甘えが出てくる。『くりっく365』などは将来は扱うかもしれないが、主力商品とはならない」

――将来展望。

「地方銀行の行く末に世間の関心は向いているが、地方の地場証券も大きな岐路に立っていると思われる。50超の各地域で頑張っているオーナー系地場証券の中で、志に賛同していただける地場証券と積極的に連携を模索したい。IFA（独立系ファイナンシャルアドバイザー）や歩合外務員が活躍できる余地も十分にある。金融を通じて社会に貢献し続けることで、JIAグループの企業価値を高めていきたい」

佐藤歩（さとう　あゆみ）

1965年5月21日生
1988年03月　大学卒業
1988年04月　岡徳証券（現アーク証券）入社
1995年07月　松井証券入社
2003年06月　松井証券取締役
2012年07月　マネックス証券執行役員
2019年10月　第一プレミア証券取締役
2020年05月　第一プレミア証券代表取締役社長就任
2021年06月　第一プレミア証券代表取締役社長退任
※2021年09月　今回買収する会社の社長就任予定
現在、ジャパンインベストメントアドバイザー顧問

◇　◇　◇

松井証券時代は、ネット証券を立ち上げたほか、日本初の証券コールセンターを創設。「株券ゆうパックサービス」、「信用取引の拡大」などに注力した。マネックス証券時代は米国株投資の普及に尽力。ビジネス成功への『執念』が信条。